

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-630	14-035	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol and male reproductive health: a cross-sectional study of 8344 healthy men from Europe and the USA. アルコールと男性の生殖機能：欧州及びアメリカの健康な成人男性 8,344 名の横断研究		
執筆者		
Jensen TK, Swan S, Jørgensen N, Toppari J, Redmon B, Punab M, Drobnis EZ, et al.		
掲載誌		
Hum Reprod. 2014 Aug;29(8):1801-9. doi: 10.1093/humrep/deu118.		
キーワード	PMID	
アルコール、男性生殖機能、性ホルモン、精液の質	24893607	
要 旨		
<p>背景と目的： 多量飲酒は広範囲の疾病と関連するが、アルコールと生殖機能の相関を調査した研究は数少なく、不妊男性の調査や小サンプル数のもので結果も一貫していない。本研究の目的は、欧米の健康な男性において飲酒と精液の質や血清生殖ホルモンとの関連性について調査することである。</p> <p>方法： 対象は国際的な横断研究に参加した健康な男性 8,344 名で、欧州 4 地域とアメリカ 4 州からの 18～45 歳のパートナーのいる不妊男性計 1,872 名及び欧州 6 ヶ国の一般集団からの妊孕性不明な 18～28 歳の若年男性 6,472 名が含まれた。参加者の選定や精液の分析については標準化されたプロトコルを用いた。参加前 1 週間のビール、ワイン、リキュール等の飲酒量を含む生活習慣に関する質問票に回答した。精液の質（量、精子濃度、精子の死亡率と形態学的な正常率）や血清生殖ホルモンレベル（FSH、LH、テストステロン、性ホルモン結合グロブリン、インヒビン B、遊離テストステロン）が調べられた。</p> <p>結果： 応諾率は 20～30%であった。少・中等量の飲酒群（中央値は 8 単位/週）ではどの精液の質と飲酒の間にも一貫した関連性を認めなかったが、どちらの群でも飲酒量と総テストステロンあるいは遊離テストステロンとの間に線形の関連を認めた。20 単位/週以上飲酒する若年男性及び妊孕性のある男性ではそれぞれ、1～10 単位/週飲酒する男性に比べて総テストステロン濃度は 24.6pmol/l（95%信頼区間：16.3～32.9）、及び遊離テストステロン濃度は 9.7pmol/l（95%信頼区間：7.1～32.2）高値を示した。飲酒量はどちらの群でも血清インヒビン B、FSH、LH レベルとは有意に関連していなかった。</p> <p>結論： この研究は、この類の研究としては最大であり、精液の質や生殖ホルモンにおける変化を捉えるのに十分なパワーを有していると考えられた。中等量の飲酒は、健康な男性において精液の質と逆の相関をもたなかったが、血清テストステロンレベルの高値と関連がみられた。</p>		